

認知症の高齢者と介護する家族に 心のやすらぎを

傾聴ボランティアグループ「ひまわり」

物忘れや判断能力の低下など、さまざまな症状が現れる認知症。全国的にも年々患者数が増加傾向にあります。

傾聴ボランティアグループ「ひまわり」(平野絹子会長)は、認知症の高齢者の自宅を訪問し、患者本人やその家族の話を聴く活動を行っています。市が主催するやすらぎ支援員養成講座を受講した男女32人のやすらぎ支援員(通称: ひまわりさん)が、2人1組で対象者の自宅を1~2週間に1度訪問し、認知症の高齢者の話し相手や見守りを行っています。2年ほど前からは、話し相手を必要とする高齢者も対象とし、活動の幅を広げています。



▲高齢者の話に耳を傾ける宮内眞里子さん(左)と喜友名光子さん(右)

ひまわりさんとして活動し、介護施設での勤務経験がある寄木テル子さんは、「在宅介護の大変さは痛いほどわかる。1時間という短い時間でも、ご家族が気持ちや身体を少しでも楽にし

てもらえれば」と話します。

やすらぎ支援員の役割は話に耳を傾けること

なので、あまり自分ばかりが話してしまわないよう心がけることが大切です。「初めての訪問は少し緊張します。ご本人の生まれ育った故郷の話をしたり、ときには一緒に童謡を歌ったりして、だんだん打ち解けて笑顔が見られるようになるのがうれしい」と話すのは、同じくひまわりさんとして活動する中村ひろ子さんです。

最近は、家族の希望で介護している方も一緒に会話することも増えていて、「(ひまわりさんとの会話で)本人の表情が変わっていく姿を見ることができた」との家族からの報告も、介護長寿課に寄せられています。平成17年の事業開始から、ひまわりさんの地道な活動が、認知症高齢者とその家族のやすらぎ支援につながっています。



▲おそろいの黄色のエプロンを着用するやすらぎ支援員の皆さん



古川博士の気象コラム



古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

「鹿島七不思議」の一つ「海の音」をご存知ですか。海の音が北から聞こえれば翌日は晴れ、南からだと雨という言葉い伝えです。昔の人は、低気圧や台風の風が引き起こす「海鳴り」から天気を予想していたのですね。

さて今回は、「台風の日」を取り上げます。下の写真のように、文字通り中心にある目のような窪みが台風の日です。台風のはじまりは、熱帯地方の海上で生まれた熱



▲国際宇宙ステーションから撮影した台風の日

帯低気圧です。太陽の熱で温められた海面から蒸発した大量の水蒸気が、上昇気流となって雲をつくり、反時計回りの渦で周囲の雲を巻き込みながら成長して台風になります。

台風の中心の気圧は周囲より低いので、外側の空気は中心へ中心へと押し込まれます。そのため中心気圧が低い台風ほど、より内側まで風が吹き込みます。しかし同時に風速も増大するので、「遠心力」も大きくなり雲



▲台風の構造の断面図
© 日本気象協会 tenki.jp

が外側に弾かれ、ある距離から内側には入り込めなくなります。この空洞となった中心部が「台風の日」です。

生まれたての弱い台風は、中心気圧が比較的高く吹き込む風が弱いため目を持たず、発達するにつれて目が生まれます。勢力の強い台風ほど、より内側に強い風が吹き込むので目が小さくなっていきます。目の内側は下降気流で、ほとんど雲がないので気象衛星「ひまわり」から見ると、海が黒く見えるというわけです。

台風が発生したら、テレビなどの衛星画像を自分の「目」でしっかりと眺め、台風の「目」の様子を確認してみてください。

[市の花] はまなす



[市の木] 松



[市の鳥] きじ



広報 かしま

平成30年9月15日 No.580

【発行】鹿嶋市 〒314-8655 茨城県鹿嶋市大字平井1187-1

【編集】政策企画部 広報推進課

☎ 0299-82-2911(代表) ☎ 0299-82-0789

🌐 <http://city.kashima.ibaraki.jp/>

✉ kouhou1@city.ibaraki-kashima.lg.jp



市公式ホームページ
(スマートフォン用)

マチイロ

~もっと鹿嶋が好きになる~

アプリで広報かしま
や市ホームページの
新着情報を確認でき
ます。



▲ダウンロード用
QRコード